



教会だより ミルトス

ミルトスは、水がなくても育つ強い木であることから不死のイメージがあり、祝福と繁栄の象徴の木と言われている。

今年のみ言葉 「私たちすべてのために」

私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるでしょうか。（ローマ書8章32節）

日本バプテスト教会連合
八千代キリスト教会
牧師 小林政和
八千代市大和田新田 94-77
:047-450-1536・Fax:047-473-3925
メール：gpnng725@gmail.com
郵便振替：00190-4-554373

どなたでも ご自由にお入り下さい。お待ちしております。
日曜日・午前10時30分・礼拝
水曜日・午後1時30分・祈祷会

「み国にあるリソース」

リソース(Resource)を辞書で引くと、①資源、物質、財源、資金 ②いざと言う時の手段、まさかの時の頼み ③臨機応変の才能、機転、やりくりが上手なこと他、とあります。私たちは福音の前進のためにリソースを必要とします。神は私たちに靈の賜物や実際的な財や物を天に備えていて下さっています。これを「み国にあるリソース」と名付けましょう。神は求める者に、天(神の国)から送って下さるので。このリソースをもらって活発に大胆に伝道・宣教しましょう。

5つのパンと2匹の魚で男だけで5千人を養った。群衆は皆満腹し、余ったパン切れを集めると12かご一杯になった。女性と子供を含めれば1万人くらいのパンと魚を、どこで製造したのでしょうか。裏方で天使たちが造った天のリソースだったのです。イエス様の祈りによって、地上に降されたのです。愛があれば、隣人の必要を察し、気の効いた価値あるものを与えたいと思うでしょう。だけど地上には与えるものがない。困窮を訴えれば、必要なものは天から与えて下さいます。例示しましょう。主のしもべが困った時に、祈れば天から食糧品が回って来た。お金がなくて困って祈った時に、丁度必要な額のお金が与えられたとの証しをよく聞きます。時間が間に合わない。万事休すの時に、祈つたら主は時間を止めて下さり、その人だけが自由に動けて、間に合ったと言う事例もよくあります。自分一人に仕事が山積みされた時に主に助けを求めたら、天から12軍団の天使が助けに来てくれて、仕事がはかどり十分に余裕をもって仕事が完成したこともあります。これらは天にあるリソースが主のご用に使われたと言えます。

復活の日にマリアたちが、イエス様のご遺体に油を塗ろうと墓に来た。前日、墓の入り口を大きな石でふさいでおいた。翌朝にはこれが転がし出されていた。一般の人は地震が転がしたと言うが、聖書はこれを天使が転がしたと言う。これも神が「天のリソース」を使ってみ業を行ったのです。

4月13日(日)八千代キリスト教会総会
午前中の礼拝の後、教会総会が開かれました。賛美
・聖書朗読・開会の祈りに続き
議長・書記を選出。議事に入り、
報告・審議・採決と順調に進み
無事閉会となりました。(下橋)





駐車場と近隣の花 (4月10日撮影)(下橋)



左:小学校の桜
右:団地内の花

4月9日(水)福間庸平宣教師の報告会

水曜日の祈祷会の日に、タイ宣教に派遣されている福間師の報告会が行われました。師は「アンバサダーズ・フットボール」という宣教団組織を通じて、タイ・チェンマイの子供たちへの宣教と育成、地域教会の支援を続けて



4月20(日)イースター礼拝と祝会

午前の礼拝後、昼食を取りながらイースター祝会を行いました。小林牧師のお祈りに始まり、賛美・イギリス





メンバーソー「教会へ通って12年」

池田英穂



難しそうなキリスト教を理解するには、好きな音楽からが早道と思いながら、教会へ通い出してからもう12年になります。聖歌・讃美歌は当然として、6~7年もたつと神への祈りと賛美、神からの愛と恵みを表現した美しい声楽や楽曲が多いこと、同時にそれぞれの旋律にはいろいろな教えが潜んでおり、そこに意味のある話が共存していることを知ります。また教会だより「ミルトス」に「3分間講座」の連載を任されてから、あれこれテーマ探しに聖書を読む機会が増し、おぼろげながら教義の奥深さ、敬虔さを併せて理解するまでになりました。

ただ情けないことに私は、教会に通う年数が多いのに、まだ洗礼を受けていない求道者です。それはこんな実のない自分をさらけ出して神に前に立ち、新しい誓いを立てるほどの心構えが出来ていないからです。いまは小林先生の導きと、先を歩む兄姉の温い目が支えです。これからも日々目標に向けて務めて参ります。」

教会及び連合のスケジュール(予定)

02月10日(月) 東京地区連合委員会
 02月24日(月)~26日(水) 連合教職セミナー(天成園小田原別館)
 03月02日(日) ミルトス49号発刊・発送、運営委員会
 03月06日(木) 龍ヶ崎(野崎宅)家庭集会
 03月10日(月) 東京地区牧師会
 03月30日(日) ミルトス50号発刊・発送
 04月06日(日) 4月運営委員会
 04月09日(水) タイ・チェンマイに派遣された福間庸平宣教師の帰国報告
 04月13日(日) 八千代キリスト教会総会
 04月14日(月) 地区連合新旧合同委員会
 04月20日(日) イースター(復活祭)礼拝&祝会
 04月25日(金) 八木明子姉のバプテスマ(洗礼)式
 04月27日(日) 聖餐式、ミルトス51号発刊・発送
 04月29日(火) 午前:東京地区連合総会、午後・スプリングセミナー
 05月11日(日) 母の日
 05月29日(木) 昇天日
 06月08日(日) ペンテコステ(聖靈降臨日)

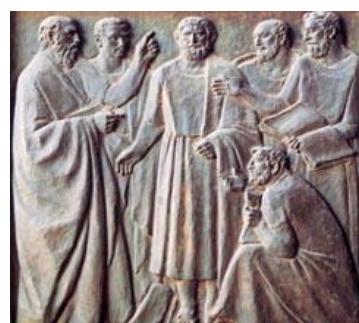
祈って下さい

- 1)「バプテスマ教会連合54教会の祈祷課題」が、み心にそって実現しますように
- 2) 横田めぐみさんははじめ拉致被害者の方々が早く家族のもとに帰れるように
- 3) ロシア軍に侵攻されているウクライナに、平和が回復するように
- 4) イスラエルとパレスチナのハマスとの間に、停戦合意が守られますように
- 5) 上福岡教会の渋谷昌史師は、抗がん剤治療中です。健康が回復できますように
- 6) 中溝兄の母「恵津子姉」の腰痛の癒しのために
- 7) 境幸子姉のお姉さん、「八木明子」姉が、4月25日(金)に洗礼を受けられます
- 8) リー・バックリ兄が貧血症。早く体力が回復できますように

3分間講座 「異邦人への伝道を広めたエルサレムの使徒会議」

紀元47年に始まったパウロとバルバナの第1回の伝道旅行のあと、ユダヤ人以外にも福音が伝えられ、新しく生まれた異邦人クリスチャンとユダヤ人クリスチャンとの間に、次第に意見の相違や対立が見え始めてきます。異邦人クリスチャンに、ユダヤ教の律法遵守を強く求めるかどうかが大きなテーマでした。そこで紀元49年、使徒たちと長老たちが一堂に集まるようになりました。これが「エルサレムの使徒会議」で、パウロの第二次伝道旅行の前のことです。「使徒の働き」(15:1~20)には、この問題がどう検討されたのかが記されています。

パウロら異邦人伝道の推進者たちは、罪を悔い改めてイエスを主と信じるなら誰でも救われるとの考えです。一方、ユダヤ教の概念に縛られているエルサレム教会側は、異邦人であれ自分たちと同じ道を行くべきで、律法を守らなければ救われないとする教義です。これはキリスト教の本質に関わる大きな主題です。会議のなりゆき次第では教会が分裂しかねないほどの激しい討論でした。会議は紛糾しますが、ペトロが、「主が異邦人たちにも聖靈を与え信仰によって救われること、またユダヤの先祖たちですら負いきれない制約や重荷を、異邦人にも負わせようとするのは神の意思ではない」と強調したのです。イエスの異父弟ヤコブもそれに賛同して、異邦人は律法に固く縛られず、割礼を受ける必要もなく、神の恵みによって救いは得られるという結論になりました。そして双方が共に歩み寄って暮らすためには、ユダヤ人が嫌う偶像に供えられた汚れた肉、絞め殺した動物の肉と血、淫らな行いは避けるという申し合せを、異邦人クリスチャンたちに手紙として送ることを決めたのです。こうして古いユダヤ教から離れた教えとして、キリスト教の教義が纏まとったのです。しかしこの会議で論争が決着したわけではありません。後々まで、ユダヤ人クリスチャンと異邦人クリスチャンの間で静かな対立は続きました。(池田)



「エルサレム使徒会議」

編集後記:4月から新学期が始まりました。小学校の新入生たちも、新しいランドセルと黄色い帽子をかぶり、元気に登校しています。しかし交通事故に遇う小学生の大半は1・2年生との事です。なれない通学で、交通ルールをうつかりてしまい、事故に巻き込まれてしまうようです。車の運転者だけでなく、近くの大人たちも見守り、悲劇が起こらないようにしてあげましょう。(下橋)

